

市政課題解決へ「誠心誠意」「一所懸命」「全力投球」で挑戦します

◆これまでの4年間

これまで、私は「遠野スタイルによるまちづくり」の推進のため、全身全霊を傾けてまいりました。この4年間を振り返りますと、心に刻むべき二つの大きなことがあります。

一つは、東日本大震災です。本市の役割を常に考え、3万市民の皆さまと気持ちを一つにしながら沿岸被災地の支援活動に取り組んでまいりました。

二つ目は、遠野物語発刊100周年記念事業です。平成17年の合併後、市民一体となり、新たなまちづくりに取り組むために位置付けたのがこの記念事業でした。数々の取り組みの一つひとつが新たな物語であり、まちの力とふるさとへの誇りにつながったことと確信しています。

◆基本姿勢と五つの視点

これからの4年間、市長として市政課題の解決に取り組むに当たり、「公平・公正・公開」を基本とし、特に次の五つの視点に立ち、託された責任を未来につなぎます。

一つ目は「維持」することです。地方交付税が減少傾向にある中、健全財政を維持し、プライマリーバランス(基礎的財政収支)の確保に努めてまいります。二つ目は「推進」です。行財政改革の推進と第3セクターな

どの関係機関とのパートナーシップの構築を推進します。三つ目は「加速」です。今年5月、外部有識者7人を構成員とする第二次進化まちづくり検証委員会をスタートさせました。10年後、30年後をイメージした「地域コミュニティ」「人材育成」「庁舎機能のあり方」の3点について、検証を加速させます。四つ目は「構築」です。高齢化率が高まる中、いかにして健康寿命を延ばすかを念頭に、保健、医療、福祉の連携と官民一体の仕組みを、再び構築します。五つ目は「展望」です。交通インフラ整備が進む中、交流人口の拡大、雇用の場を確保するため、当市が持つさまざまな優位性や独自性を踏まえた未来の展望を見出し、まいります。

この五つの視点を基に、10年先、30年先を常に意識してまいります。

◆二つの緊急課題

私が公約として掲げた、直ちに取組むべき二つの緊急・優先課題の取り組みについてです。

一つ目は、地域経済の振興と雇用の確保、交流人口の拡大についてです。本市の農業は、地域を支える基幹産業ですが、農業を取り巻く環境は、高齢化や後継者不足に加え、T P P問題や減反政策の見直しなど、厳しい状況が続いております。これ

らの課題に対応するため、「担い手支援」、「新規就農者の確保」、「農地の集積」を推進するとともに、遠野市農林水産振興ビジョン、通称「タフ・ビジョン」を基に、足腰の強い農林畜産業の振興をさらに加速させます。

震災後、東北横断自動車道釜石秋田線の工事が進み全通することが見えてまいりました。これらの交通インフラの整備に伴い、地場産業の強化や、遠野東工業団地をはじめとする工場適地の確保、交流人口の拡大などの環境づくりに取り組めます。また、多様なニーズへの対応のため、第1〜3次産業の枠組みを超えた産業連携、いわゆる6次産業化に向け、農産物加工施設の整備や加工品開発への取り組み、販売促進に対する支援を強化します。

来春に予定されているJR東日本によるSL運行を機軸に、JR遠野駅から市民センターまでの通りを中心とする町家・商家の景観保全などの再整備、宮守町の「mm1」やめがね橋周辺の環境整備にも取り組まします。

二つ目は、「子育てするなら遠野」をキャッチフレーズとした、少子化対策と教育環境についてです。保護者の皆さまが安心して子育てができるよう、引き続き、子育て総合支援センターを中核に、教育委員会、遠野市保育協会などとの連携を図り、出産から幼児期、高校生まで

の切れ目ない子育て支援に取り組めます。

上郷、宮守地区の子育て支援住宅の団地化の推進や、子育て支援を目的とした住宅リフォーム、奨学金制度の充実にも取り組めます。

7年の歳月をかけて進めてきた中学校再編成の取り組みが実を結び、平成25年4月1日から、遠野中学校、遠野東中学校、遠野西中学校の3校が開校し、順調なスタートを切ることができました。今後は、次代を担う子どもたちが、「知育」「徳育」「体育」といった総合的な学力、自らの力で未来を切り拓く基礎学力の向上に取り組めます。

平成28年には「希望郷いわて国体」が開催され、本市は、サッカー少年男子の会場地に決定しております。開催に向け、遠野運動公園陸上競技場などの環境整備に取り組むほか、市役所内に推進組織を立ち上げ、国体成功に向けた準備を進めてまいります。

また、郷土芸能団体の育成支援や、遠野遺産認定制度の一層の充実など、地域文化の保全・継承にも取り組めます。

◆10・とおの約束

私は、4年前の市長選挙で、「10の約束」を80項目に整理し、その実現に全力を挙げてまいりました。その約9割が「達成」または「着手」とい

う結果となりました。

今回、私はさらに遠野を発展させるため、あらためて「10・とおの約束」として64項目を掲げました。行政は将来を見誤らない展望、そして、未来を見出し出していかなければなりません。加速される高速交通ネットワークに備えた、地域づくりが待ったなしの課題です。遠野には、健全な地域コミュニティなど、人と人をつ結び、地域と地域との絆が育まれております。「10・とおの約束」を全職員が共有し、仕事に向き合わなければならないと考えております。

◆挑戦の4年

これに加え、「市長と語ろう会」を開催し、市民の皆さまの意見・提言をまちづくりに反映させたいと考えております。

「合併前合併後」そして「震災前・震災後」と、市町村を取り巻く情勢や環境は大きく変貌しました。その中で多くの市民の皆さまのご理解とご支援をいただき、ひたすら「挑戦の気概」を持ち、課題解決に取り組んでまいりました。

合併前から早や8年。この間「新遠野市のまちづくり」計画により、市民の皆さまとお約束した課題解決に全力で取り組み、おおむね約束事項を「形」にすることができました。このほど、厚生労働省の国立社



今後4年間について所信表明する本山市長